

下水道事業を取巻く環境

1. 経営計画の策定・見直しと後半の5年間に向けて

- 投資と財源のバランスに配慮し、『ひと・もの・かね』の経営資源を最大限に活用し、下水道事業を持続可能に運営するため、平成28年に「岡山市下水道事業経営計画2016」を策定
- 経営計画の策定から5年が経過したことから、PDCAサイクルに基づき目標達成状況の中間評価を行い、その結果等を踏まえ**令和3年3月に計画を改定**
- 後半の5年間では、平成30年7月豪雨等を踏まえた**浸水対策**を一部前倒しして進めるとともに、下水道の概成に向けた**未普及対策**、施設の**老朽化対策**、**耐震対策**などを引き続き推進
- これらの対策により**令和3年度、4年度に事業が集中**することから、**経常経費の抑制や事業の効率化を今以上に進める**とともに、有利な財源を最大限活用し、**持続的な下水道事業経営に努めていく**



2. 下水道事業の現状 (R2中間評価時点)

(1) 施策の現状

- ①未普及対策**
 - 11万人の市民の汚水処理がなされていない
- ②浸水対策**
 - 岡山平野はゼロメートル地帯が広がるなど**水害に脆弱**な地形
 - 集中豪雨の増加**により、浸水被害の件数・規模が増加
- ③耐震・耐津波対策**
 - 南海トラフ巨大地震**により、**最大震度6強**の揺れ、**最大2.6m**の津波が想定される
 - 下水処理場、ポンプ場のうち、**耐震基準を満たしている割合は23%**
 - 想定**津波被害**は**処理場1施設、ポンプ場9施設**
- ④環境対策**
 - 下水道の普及に伴い、**下水汚泥の発生量は年々増加**
 - 市役所の全電力量のうち、下水道の**電力量は3番目に多い**

(2) 下水道事業の経営資源 (ひと・もの・かね) の現状

- ①施設 (もの) の現状**
 - 約2,500 kmの管きよのうち、標準耐用年数の50年を経過したものは、**現在113 km (全体の5%)**
 - 老朽化等に起因する**道路陥没**が、R1年度では**年間136件発生**
 - 処理場9箇所、ポンプ場27箇所のうち、標準耐用年数の15年を経過したものは、**処理場9箇所、ポンプ場25箇所**
- ②経営 (かね) の現状**
 - 維持管理費は、年間50億円弱**であり、処理水量の増加に伴い年々増加
 - 企業債の**発行額は100億円**前後で推移、企業債**元利償還額は200億円**
 - *前後で推移 ※ 資本費平準化債収入等による企業債充当分を含む
 - 汚水処理費用を使用料収入で賄っていない (**経費回収率97.4%**)
- ③管理体制 (ひと) の現状**
 - 30~40代職員が減少傾向にある一方、**20代職員が16%に増加**、若手職員への技術継承、時代の変化に対応できる職員の育成が必要

(3) 将来の改築・更新需要の推計

- 改築・更新需要の予測は、資産の状況や将来の**老朽化の進行を適切に把握・予測する取組を進めている途上**であり、現状で把握できている資産の内容や、全国的傾向などをもとに改築・更新需要を予測
- 今後、より一層の資産状況の把握や予測手法の向上等を図り、**予測精度を向上させる必要**があり、予測も変更になる可能性がある

- 管渠や処理場・ポンプ場の将来の改築・更新需要について、平準化を行った場合でも、40年後には**年100億円程度の改築・更新需要**が見込まれる
- 将来の改築・更新需要に適切に対応できるよう**長寿命化や平準化を計画的に進めていく必要**がある

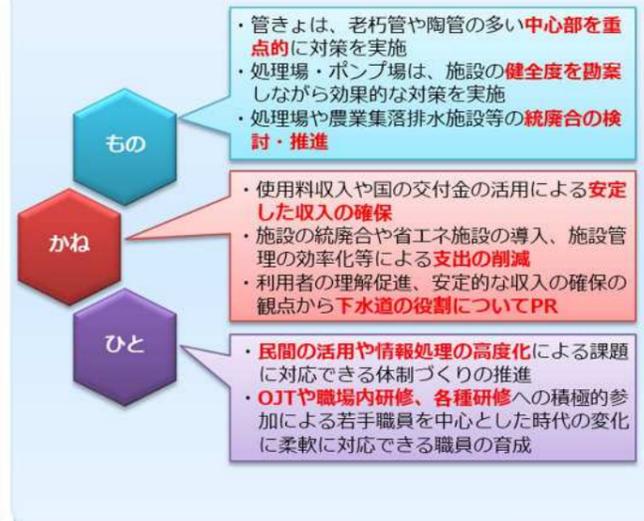


3. 経営方針と具体的な取組み

【施策ごとの方針】



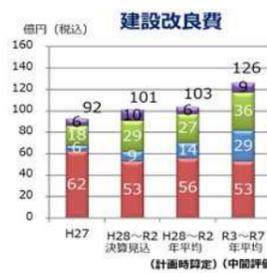
【経営資源 (ひと・もの・かね) の方針】



4. 投資・財源計画

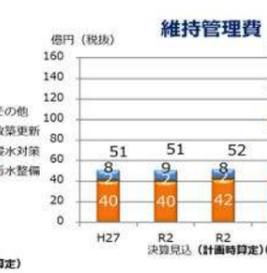
【建設改良費】

平成30年豪雨対策や主要な大型事業の実施により**R3,4に事業が集中** (未普及対策に約53億円、浸水対策に約29億円、耐震・老朽化対策に約36億円)



【維持管理費】

年間**51~54億円** (税抜) で推移



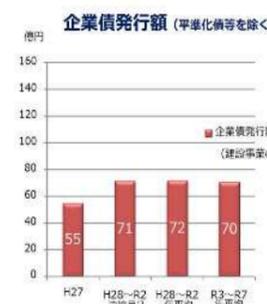
【実質的な元利償還金】

資本費平準化債収入等を考慮した企業債の実質的な元利償還金は、過去の投資に伴う償還が今後ピーク (R10年前後) を迎えることから、年間**141~151億円**



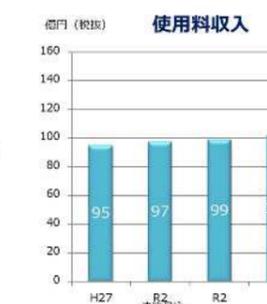
【起債発行額】

建設改良費にかかる企業債発行額 (起債) は、年平均で**約70~72億円**



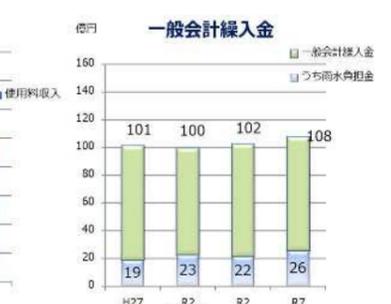
【使用料収入】

普及率・接続率の増加により有収水量が増加すると見込まれることから、年間**95億円~102億円**に増加



【一般会計繰入金】

企業債の償還金がピークを迎えること等により、年間**101~108億円**に増加



5. 主な数値目標・経営指標

主な項目	H26年度決算	R2年度決算見込	R2年度目標値	R7年度目標値	主な項目	H26年度決算	R2年度決算見込	R2年度目標値	R7年度目標値
下水道処理人口普及率	65.1%	68.2%	70%	74%	運転効率の高度化による省エネ	岡東浄化センター電力使用量	毎年度1%削減		
浸水被害地区の施設整備率 (目標整備面積約390ha)	—	46%	53%	100%	管きよの老朽化の点検・調査 (旭西排水)	累計 39km	累計 104km	累計 92km	累計 129km
旧耐震基準9施設の改築	—	4/9施設	2/9施設	7/9施設	公共下水道への接続率	86.9%	90%	90%	93%
BCP (業務継続計画) 実施訓練		毎年度1回実施			企業債残高	2,331億円	2,082億円	2,160億円	1,960億円

※R2年度目標値については各項目とも「達成」もしくは「概ね達成」と評価 (R2中間評価結果より)

6. 本計画のPDCAサイクル

- 本計画の目標達成状況の進捗管理や戦略的な取組を行うため、下水道河川局内に「**岡山市下水道経営会議**」を設置
- 経営会議の下に各**ワーキンググループ**を置き、引き続き取組の進捗管理や戦略的な取組方法の検証を実施
- また、計画の進捗状況について、**議会やHP等で公表**し、意見を踏まえて、**計画の見直しや修正**に反映



新たな下水道事業経営計画 (※R2中間評価の結果等を踏まえ、計画を改定)

1. 経営理念

『**下水道事業の持続的な運営を図りながら、快適で安全・安心なまちづくりに貢献します**』

【下水道事業の持続的運営】

将来の人口減少が予想される中で、財政面、人的面での制約が厳しくなる一方、インフラの更新需要は大幅な増加が想定されます。こうした諸条件に柔軟に対応し、投資と財源のバランスに考慮しながら、下水道事業を持続可能に運営します。

【快適で安全・安心なまちづくりへの貢献】

引き続き、市民の生活環境の改善や水環境の改善、浸水被害の軽減を図ります。下水道の未普及対策や防災・減災対策等に取組み、**快適で安全・安心なまちづくりに貢献**します。

2. 計画期間

- 平成28年度から令和7年度の**10年間**



イメージキャラクター：モグリん